

津別の物産が大集合！
2016つべつ産業まつり開催

10月16日、6回目を迎える秋の恒例イベント「2016つべつ産業まつり」(主催 つべつ産業まつり実行委員会)が、さんさん館1階と町道105号線の一部を会場に開催されました。

山鳴太鼓保存会による迫力のある和太鼓演奏で幕開けした催しは、穀付きホタテの特売、いも・玉ねぎ詰め放題、米や砂糖などのタイムサービス、『ランブの宿・森つべつペア宿泊券』など豪華景品が当たるお楽しみ抽選会と、お得な企画がいっぱい。津別の特産品や食べ物を販売する出店も並び、多くの人で賑わいました。



▲山鳴太鼓保存会の演奏



▲賑わった出店



▲お楽しみ抽選会の様子



▲人気企画のいも・玉ねぎ詰め放題



▲ハーフコースを走るゲストランナーの松野明美さん(右から3人目)

松野明美さんをゲストランナーに迎える第15回つべつ紅葉マラソン大会開催
10月2日、快晴の空の下で「第15回つべつ紅葉マラソン大会」が開催されました。小学生からお年寄りまで、町内外334人のランナーが、体力、経験に応じてハーフコース、10kmコース、5kmコース、3kmコースにエントリー。午前10時30分、それぞれの発走地点から同時にスタートし、津別小学校グラウンドのゴールを目指して力走しました。

15周年記念大会として行われた今大会では、ソウル五輪1万m日本代表の松野明美さんがゲストランナーとしてハーフコースを走り、レースを盛り上げてくれました。

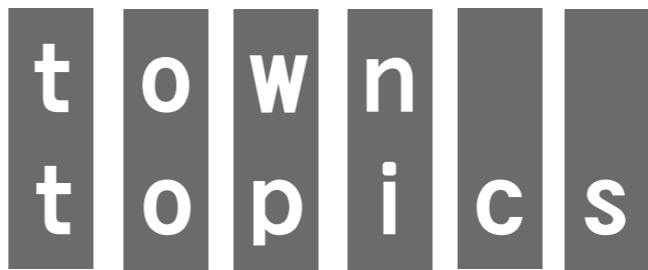
それぞれがテーマを持って参加
青少年海外研修派遣事業出発式

10月4日、平成28年度津別町青少年海外研修派遣事業によるニュージーランド研修の出発式が、町長室で行われました。

今年の参加者は、斎藤優太君、白井啓斗君、藤岡篤也君、本間峻太君、河野ノアさん(いずれも津別高校2年生)の5人で、10月14日から26日までの13日間、ホームステイをしながらオークランド市内の高校の授業を受けたり、博物館を訪れるなど、国際的視野を広げる研修に励みます。



出発式では、竹俣副町長からの激励に込めて、生徒たちが「食文化」「教育環境」「建築技術」など各自が定めたテーマを持って研修に臨み、その成果を今後に活かしたいなどと抱負を述べました。



まちのわだい

まちバスの車体側面に掲示
交通安全標語ステッカー寄贈

10月17日、津別町交通安全協会(柳瀬輝彦会長)から町に贈られた、まちバス用交通安全標語ステッカーの寄贈式が、役場庁舎前で行われました。

ステッカーには「第24回交通安全に関する標語コンクール」小学生の部・最優秀賞『その事故が あなたの未来を うばうかも』(現・津別中学校1年 兼平航志くん)、中学生の部・最優秀賞『安全は 小さな注意の 積み重ね』(現・北見緑陵高校1年 石井葵良さん)の標語がそれぞれプリントされており、バスの車体側面に掲示して、交通安全啓発に役立てられます。



▶まちバスの前で(左から)兼平くんと柳瀬会長

舞踊やカラオケ合唱など日ごろの活動成果を披露
寿大学文化祭・舞台発表会を開催

9月24日、平成28年度津別町寿大学文化祭・舞台発表会が、中央公民館で行われました。

揃いの着物を着て舞う舞踊や、美しい音色を奏でた大正琴の演奏、華やかな社交ダンス、息の合った歌声を響かせたカラオケ合唱など、6つの演目に延べ60人あまりの学生が出演し、クラブ活動の日ごろの練習成果を披露しました。

元氣一杯のステージに、観客からは惜しみない拍手が送られました。



地域おこし協力隊員の中村さんと萩原さんに辞令交付

10月11日、地域おこし協力隊員として網走市から中村優也さんが着任、10月12日には札幌市から萩原由美乃さんが着任し、佐藤町長から辞令が交付されました。今後、中村さんは障がい福祉サービス事業所「株式会社ビーと」の担い手として、萩原さんは相生地区のNEOFOLKのクラフトマンとして活動します。



▲町長から辞令を交付される中村さん(上)と萩原さん(下)

※「地域おこし協力隊」とは、総務省の事業で首都圏等から地方へ移住し、生活支援や地域活動に協力し、将来は地域で就業または起業することと地域活性化を目指すものです。

地域おこし協力隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

36 晩秋の頃

曾根 一毅

旭川出身。自分とお嫁さん探しに来ました。祖父母の影響で動物と料理が好きです。カラオケはほぼB2です。

初雪も降り、めっきり寒くなりました。

私が津別町地域おこし協力隊としてお世話になってから約一年半が経ちました。

あいおい物産館内の「そば処あいおい」にてメニューの改善や、作業効率アップを主なミッションとして活動して参りました。

そのミッションが一段落し、現在は、出汁(だし)の改良に取り掛かっております。出汁取りは、とても奥深く、回数を重ねることに正解が判らなくなりますが、それ故に、やりがいを感じています。いつの日か、道内一のそば処といえれば相生と云われるよう精進して行くことが、私にできる地域

おこしではないかと考えています。

これからの季節の相生は、特に遠く足の向けづらい場所になります。お通りの際は、是非お立ち寄り頂き、ご意見・ご感想をいただければ幸いです。